

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300596		
法人名	有限会社 ゼロズ		
事業所名	グループホーム ほほえみ 棟		
所在地	津山市下高倉西549-43		
自己評価作成日	平成22年1月 20日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370300596&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370300596&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お1人お1人の身体状況や症状に応じて、安心感がありホームが自分の居場所と感じて毎日の生活を送って頂く支援をしている。  
言葉使いや態度は、ご利用者の人格や誇りを大切に、それが自然に行えるように職員一人ひとりが心がけている。また、職員間の信頼関係があり、全員で同じ方向性を持って、意見を出し合いながらケアの向上を図っている。  
必要な医療を受けられるように支援し、ご家族への連絡も密に行っているので安心していただいている。  
季節感を感じられる食事や食器、盛り付けに気を配り美味しく召し上がっていただく工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉢花のあるウッドデッキをはさんだ2つのユニットがリビングルームで連結しており、利用者は色々な場所で自由に過ごしている。両ユニット合同で体操やレクリエーションをしたり、共同で調理をするなど、ホーム全体が和やかな雰囲気である。利用者が楽しむ『食』にこだわり、豊かな手作り料理が喜ばれている。  
開設から10年目を迎えて重度化も進み、支援も個別対応や困難事例が増えてきた。終末ケアも何度も経験している。長年安定している職員の連携があればこそと、良い人間関係に自信が見える。介護計画もよく検討し、具体的で根拠のある支援を行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は常に見えるところに掲示し、ケア検討においても理念に基づいたケアのあり方を考え、実践している。	『利用者の主役・充実感・安心感』を目指して、職員たちは共に過ごす気持ちで取組んでいる。代表者も職員と共に働き、安定した職場を造り、職員間で連携のとれた質の高いケアを心掛けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グリーントウンの子供は遊びに来る。小学校にはほほえみニュースレターを掲示してくださっている。野菜市の皆さんとは顔なじみ。町内清掃やお祭りなどの行事も参加させていただいている。	地域のグループホームの中心的役割を担うほか、小学校と交流を持ったり、地域の文化祭に参加するなどの交流がある。また、野菜市での交流、近所の子どもの来訪など生活の中での交流もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームを訪問されたかたはよく、ここは認知症の方も利用できますか？と聞かれることがある。また、利用者の方を見守りながら、歩いている姿を目にされ、普通の生活が送られることをご理解いただいていると思う。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開き、報告やテーマを決めて取り組み状況の説明をしたり、相談に乗っていただいたりしている。家族や職員間でも内容は共有し活用している。	町内会長など地域代表、市職員、医師、利用者家族などのメンバーで、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。行事に参加してもらい、ホームの状況報告をし、市からの助言、家族からの意見などをもらっている。	地域の人や家族に認知症への理解を発信し、災害時の支援要請や訓練への協力依頼もしておきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でホームの現状や取り組み状況について聞いていただいている。必要などときにはいつでも相談に乗ってくださる。	運営推進会議には毎回高齢介護課職員が参加し、資料の提供や助言を受けている。地域の中心的グループホームとして、市や県の研究会などにも参加している。	地域の人や家族に症状への理解を発信し、災害時の支援要請や訓練への協力依頼もしておきたい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基準を理解している。言葉による拘束も気をつけている。ケア会議では全員で、拘束の無いことを確認しあっている。	各職員が身体拘束についてのハンドブックを持つなど研修には努めており、身体拘束をしないケアに努めている。ホーム外へ一人で出て歩かれる利用者もいるが、センサーの取り付け、見守りや付き添いで危険を防いでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学び、会議で発表し詳細な内容は回覧して、高齢者虐待について勉強している。職員の意識も高い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解はしているが、必要性を感じるケースを経験していない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書・重要説明事項・個人情報・医療連携加算・社会生活で丁寧に説明し、理解・納得を得て契約を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情の申し立ての相談窓口を分かりやすい場所に掲示している。 また、折に触れご意見を伺っている。	家族へはニュースレターで情報を送り、家族からは面会時や運営推進会議などで、要望や意見を聞く機会があり、感想なども聞いている。これまでに出了苦情に対しては、十分検討して対処した。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のスタッフ会議で話し合っている。 細かな気づきや提案は、その都度話し合ったりノートで意見交換をしたり、食事についての意見を書く表があったり、気づきを生かす工夫がある。	毎月1回ケア会議をユニット毎と合同とで行っている。長年勤務している職員が多く、話し合いや『なんでもノート』により、職員間の連携はよくとれている。代表もケアに参加しつつ管理者に運営を任せている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望・職員間での調整・体調管理等様々な面で働きやすい環境の整備がされている。 定時終業 有給休暇 冬夏休暇がある。 職員も信頼し合い、ケアの目標も高くやりがいがある		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員が勤務として研修に参加し、内容を持ち帰って全員で共有し、実践にいかしている。働きながら資格を取り、自己研鑽に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	津山市内の全グループホームの勉強会に参加している。情報交換やケアを考える機会があり、サービス向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初はできるだけゆっくり会話の時間をとり、ご本人の言葉・表情から気持ちを汲み取り、安心し、職員が信頼できる存在であると感じていただける関係作りを心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭での様子をよくお聞きし、ホームに託していただくご家族の気持ちをしっかり受け止め、ご家族の気持ちのケアも心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のアセスメントをしっかり行い、ご家族からの情報も考慮し、まずは安心感を第一にその方の自立を支援できるケアを考えている。 リスクの把握が初期では大切と思う。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくりとコミュニケーションをとり、信頼関係を築き、できる事をして頂くことで、皆の役に立っているという充実感を感じ、お互いが感謝の気持ちを表わせる場面を作っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは密に連携をとっている。訪問されたときには、一緒にゆっくり過ごしていただいている。 食事の介助もして下さる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問して下さった方々とは、お茶を一緒にしたり皆さんのいる場所で、共に楽しい時間を共有していただいている。	住んでいた家やその近所の友だちに会いに行ったり、以前通っていた教会に行ったこともある。利用者の重度化により出かけて行く機会は減ってきたが、希望に応じて家の柚子採りに行ったり、友人に来てもらったりしている	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地の良い空間になるように、席の配置に気をつけている。支援が必要な方は職員が、同席しみなさんが和気藹々と過ごせるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたらお見舞いに伺ったり、見送った方のご家族に会えば思い出話になる。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような過ごし方をされたいか希望を把握し、常に職員間で話し合いケアを行っている。 気持ちに添って生活するように気をつけている。	詳しいアセスメントにより、利用者の経歴や考え方を十分把握した上で、本人の希望を十分聞き、思いを受け止めるようにしている。不穏時には、さらなる寄り添いと傾聴を望みたい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の暮らしシートをご家族にお願いし、ご本人の生活歴や大切にされていることをできるだけ把握している。ご本人からも日常的にエピソードをお聞きし、職員間でも共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況の観察、気分の変動を把握し、できる事を把握し、潜在能力を引き出す事も心がけている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で検討し、ニュースレターでご家族に近況をお知らせし必要なことは電話などで連絡している。モニタリングを行いケアプランの見直しにつなげている。	介護計画作成に当たり、本人や家族の思いを聞いて、職員間で十分話し合い、具体的な支援目標・支援内容を決めている。見直し時には支援の実績への評価を行い、根拠のある計画の継続や立て直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはその方が発せられた言葉を記録したり、日頃と違う点を注意している。記録には事実を、何でもノートには職員間での情報共有や見直しというように実践している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方、場合に応じて安心できる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流、近所の方々との交流、買い物、気晴らし外出、季節を感じる外出、行事の参加など楽しんでいる		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とかかりつけ医は決め、かかりつけ医には事業所の支援で受診を支援している。必要時は往診や入院治療も受けられる。	基本的に受診は職員が付き添う。長時間を要する受診はご家族の協力をお願いすることもある。往診や訪問歯科の受診もできる。協力医療機関との連携が密で医療面での安心感がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の身体の観察をし、必要時は看護師に相談できる。また、連携医療機関も随時相談に乗ってもらえ、適切な受診や看護が受けられる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの入院に至るまでの状態を詳しく伝えている。病院関係者との関係は良好で入院中も、見舞いに行きご本人の不安も和らげている。早くホームに帰りたいという言葉を聞ける。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携と看取りに関する指針を説明し、ホームでできることとできないことの説明と、終末期については延命治療等についても、その都度話し合い方針を確かめている	医療行為は出来ないことを了解の上で、家族・医師・職員と十分な話し合いの上で、ケースバイケースでこれまでに何度も看取りを経験している。家族にはその終末に満足してもらっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の訓練を定期的に行い、レスキューセットの使用方も身に付けている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。 地震などの災害はご家族の支援をお願いする 地域の防災連絡にも参加している	利用者も参加して年2回の避難訓練を行っている。住民参加のマニュアルもあるが、まだ実践していない。推進会議委員に消防団長夫人がおられ、相談に乗ってもらったり、指導を受けたり地域のマニュアルに組み込んでもらったりしている。	災害時には近隣住民の支援が重要であり、避難訓練にも参加してもらいたい。運営推進会議で訓練実施方法などを話し合い、地域への支援要請をしていきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、誇りを大切に接し方をしている。言葉かけも必ず、気持ちを引き出せるよう気をつけている。	職員が利用者の部屋に入るときに了承を得る・声かけ説明の後に介助など実施するなど、利用者の気持ちを尊重している。また、プライドも尊重し、役割を持って頂き、できないときのフォローにも気をつけている	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情・様子から読み取り、自己決定して実行できるように、声かけや働きかけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かを行う時には必ず、ご本人の気持ちを声かけや表情で確認している。気持ちや体調が向かないときには特に気をつけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の好み、お化粧品、ヘアカラー、ヘアカット等その方の望まれるおしゃれができるように支援し、笑顔で確認している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、根とりなどの下準備から参加していただき、下膳、膳拭き等できること、できていると感じていただける支援をしている。	食材や食器にこだわりを持ち、豊かな食事を楽しめるよう、利用者の好みなどを考えて献立や調理に努力をしている。利用者は満足しており、職員も介助しながら一緒に食事を楽しんでいる。時には外食も取り入れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が困難になっている方には特に気をつけて、水分摂取量、摂取カロリー、好まれる味、形態等記録し支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じ、歯磨きの声かけ、確認、介助、口腔清拭等の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がない方もトイレに座って排泄できるように支援し、個々の排泄パターンを考慮してトイレ誘導を行い、気持ちの良い排泄を考えている。	重度でオムツ使用の人や紙パンツやパッド使用の人もあるが、昼間は時間的な声かけや誘導により、できるだけトイレで排泄するようにしている。中にはオムツをはずせた例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜、乳製品の摂取を個々の好み、状態に応じて便秘の予防を行っている。それで改善しない場合は医療連携で適切な便秘薬の処方を受け便秘の予防をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番を希望されたり、入浴を嫌がられる方、毎日入浴希望の方と色々な要望をお聞きし、体調に無理の無いように希望を取り入れた入浴支援を行っている。	毎日風呂を沸かし、希望を聞いて1日に3人ずつくらいが入浴している。入浴拒否者もあるが、家族に声かけを頼むなど工夫をし、少なくとも週2回は入浴できている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮し、休憩時間と好みの空間を確保し、夜間は慣れた寝具で、室温の調節も気をつけて安眠できる環境を創り、入床のタイミングも個々に合わせて行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや、誤薬の無いように1日分ずつ個々のケースに分けて薬をセットしている。症状の変化に伴う、薬の変更になった場合も明記し、気をつけている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な事をさせていただくことで、生き生きとした表情を見ることが出来る。一緒に家事をする事で生活の張りになっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候の良い日には散歩や、買い物に出かける。季節を感じる花見、紅葉見物などドライブに出かけたり、小学校や地域の行事にご一緒している。ご家族との外出・外泊には必要な情報と準備で協力している。	利用者の重度化により全員そろっての外出はできなくなっているが、少数・あるいは個別で花見や紅葉狩りなどに出かけている。日常の散歩や買物にも出かけたり、ユニット外のウッドデッキでの交流も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により買い物ができるように預かり金として支援している。本人が所持されているお金に関しては、混乱の無いように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月作成する絵手紙をご家族に送ったり、電話をしたい希望があればいつでもかけていただけるようになっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のものを飾ったり、花を楽しんでいただいている。作品も最新のものを掲示している。明かりや音には気をつけ、特に職員の足音など慌ただしさを感じないように配慮している。	造りの違う2つのユニットがリビングルームで連結しており、利用者は色々な場所で自由にゆったりと過ごすことができる。利用者の作品や、絵画や植物の配置、鉢花が置かれたウッドデッキなど豊かな雰囲気作りである。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり落ち着ける馴染みの席を確保し、職員もその事を承知している。アクティビティの時の席順も心地よく楽しめるように工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族のご用意されたもので居心地良く過ごしいただけるよう工夫している。ホームの備品でお部屋を居心地良くする場合もある。	備え付けのベッドやクローゼットのある中に、利用者独自の家具や道具を入れて、その人らしい個室を作っている。過剰な装飾ではなく、親しんできたイスや机・長年使っていたピアノを置いている人もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮して環境を整備している。目印になるものを分かりやすく、なおかつ目障りにならないように配置している。		